

EM最先端技術を応用したお米作り

平成30年1月14日

《春処理》

1. 田植え 1ヶ月前
 - ① EM整流クン炭 200ℓ／反
 - ② EM ボカシII型 150kg／反
 - ③ 塩 500kg／反

※EM 整流クン炭を散布した後、深さ10cmをめどに耕耘する。その後、塩を表面に散布する。
2. 塩の表面散布2週間後
 - ① 海水EM2次活性液を散布する。 500ℓ／反
 - ② 翌日、10cm（出来るだけ浅く）の深さを目処に代掻きを行う。
3. 一回目の代掻き2週間後
 - ① 海水EM2次活性液を散布する。 100ℓ／反
 - ② 海水EM2次活性液散布後に10cm（出来るだけ浅く）の深さを目処に植え代掻きを行う。
4. 3の処理後に出来るだけ早く田植えを行う。
5. 栽培中に海水EM2次活性液を10a当たり50ℓを2週間に1回葉面散布を行う。
※出穂期から稲穂が90度ぐらい下がるまでは10倍希釈液で散布を行う。

《秋処理》

1. 収穫後の荒起こしのあと
 - ① EM ボカシII型 150kg／反
 - ② EM ボカシII型散布後すぐに深さ10cmを目処に耕うん作業を行う。
 - ③ 塩の散布。 500kg／反
2. 塩の散布後2週間以上おいて
 - ① 海水EM2次活性液 500ℓ／反
 - ② 10cmの深さを目処に耕耘して、有機物を土の中に入れ分解する。

※必要に応じて春処理の塩散布までに耕耘作業を行い、表面に有機物の無いようにしておく。

《春処理までに行う作業》

1. 耕作放棄地からの稲作の場合

① 圃場一面に雑草がある場合

㊦MCにてトラクターが用意できる場合

- ・トラクターにハンマーナイフ（雑草を細かくする機械）を装着し雑草を細かくする。

（ハンマーナイフは農法部の貸し出し品。装着については農法部に相談）

㊧MCにてトラクターが用意できない場合

- ・草払い機で雑草を刈る。
- ・刈り取った雑草は焼くなどの処理を行う。

② 雑草処理が終わった圃場（EM ボカシⅡ型と塩の散布）

㊦なるべく早く、EM ボカシⅡ型 150 kg/反を散布し圃場の耕うん作業を行う。

㊧表面に稲株や雑草などの有機物が残らないように丁寧に行う。春処理が始まるまでに何度か耕うん作業を行う。

㊨塩を 500 kg/反を目安に散布する。（散布後は耕うん作業を 2 週間は行わない）

③ 畦の補修について

- ##### ㊦畦の雑草を草払い機で綺麗に刈り取り、低いような所には土を入れて高さを整えたり、どうしても補修が無理なところは畦シート等を張り、畦からの水漏れが起こらないようにしておく。またモグラ等の対策として EM 活性液ペットボトルを畦に 5メートル間隔で埋めておくといよい。

2. 昨年まで耕作していた稲作の場合

① 荒起こしと EM ボカシⅡ型と塩の散布

㊦なるべく早く、EM ボカシⅡ型 150 kg/反を散布し圃場の耕うん作業を行う。

㊧表面に稲株や雑草などの有機物が残らないように丁寧に行う。春処理が始まるまでに何度か耕うん作業を行う。

㊨塩を 500 kg/反を目安に散布する。（散布後は耕うん作業を 2 週間は行わない）

なるべく早く荒起こしを行い、塩を 500 kg/反を目安に散布しておく。（散布後は耕うん作業を 2 週間は行わない）

② 畦の補修について

- ##### 畦の雑草を草払い機で綺麗に刈り取り、低いような所には土を入れて高さを整えたり、どうしても補修が無理なところは畦シート等を張り、畦からの水漏れが起こらないようにしておく。またモグラ等の対策として EM 活性液ペットボトルを畦に 5メートル間隔で埋めておくといよい。